



INFOLEAK

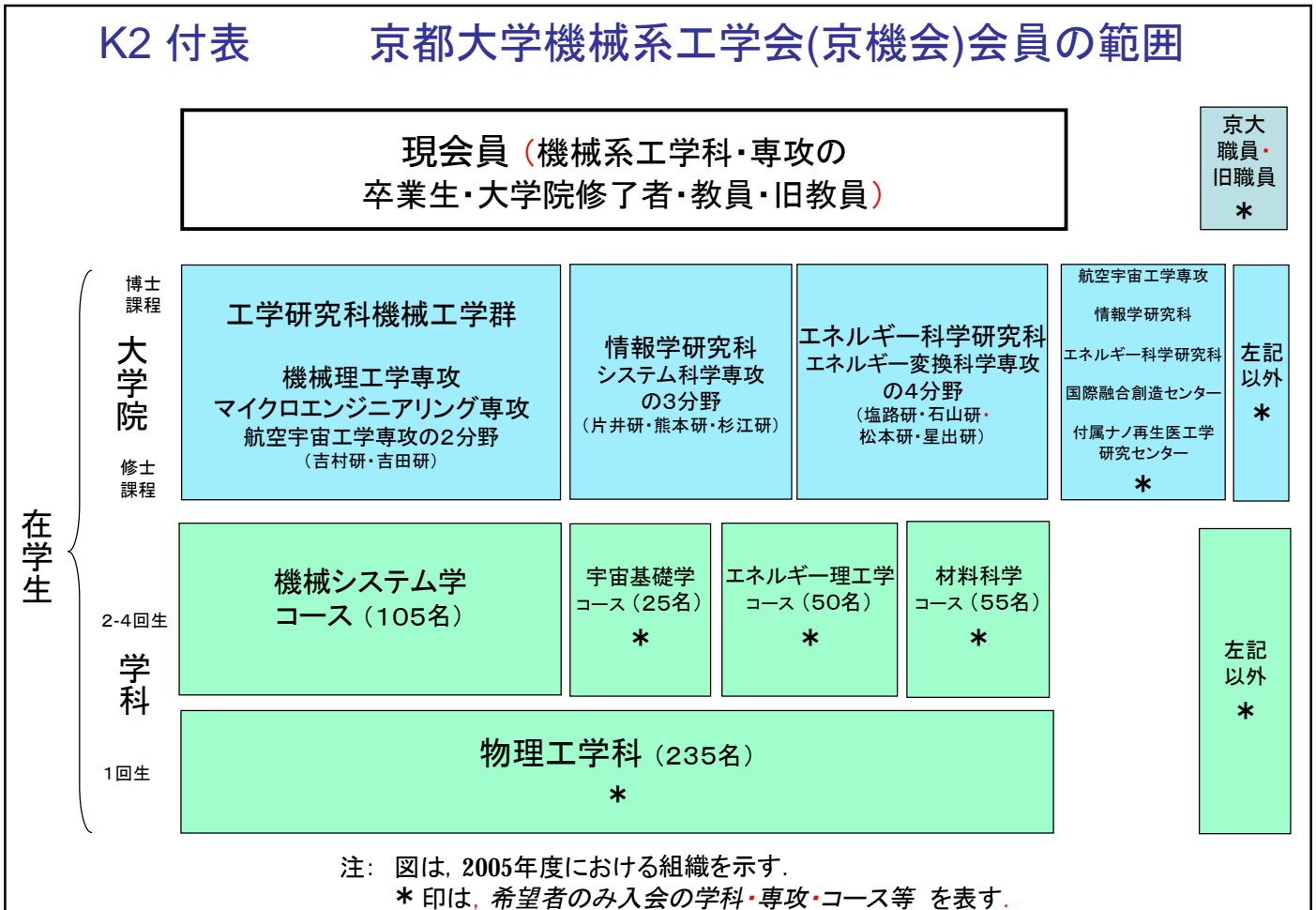
平成大改革

京機会をより活性化するための改革が検討されています。幹事会での審議内容の要点をリークします。次の評議員会、総会での審議と関係のある内容です。ご検討の程、宜しくお願い申し上げます。

1. 会員資格の拡大

京機会を活性化するためには若い人を巻き込むことが必要である。これを実現するため、従来、同窓会、すなわち、卒業生の団体であった京機会を、卒業生、学生、教員、関係者を含めたものに拡大する必要がある(図参照)。これにともない、会則、内規の修正を要する。

K2 付表 京都大学機械系工学会(京機会)会員の範囲



2. 賛助会員（永年会員・フェロー）制度の導入

京機会の活動、経営に貢献された方を顕彰する必要がある。この貢献には、財政的支援も含まれる。そのための賛助会員「フェロー」を設けるべきである。

また、60歳以上の会員で5万円の永年会費を払った希望者については、毎年会費を払い続ける必要のない「永年会員」とする制度も設けるべきである。

3. 学生会拡大の努力

会員資格の変更にともない、学生の京機会員登録化に努力する必要がある。そのため、学生のガイダンス時に京機会の広告勧誘を行う。また同時に、在学生の京機会会費を大幅に割引（通常会費年3000円を1000円に）、また、学生会の活動を援助することが必要である。学生会員が在学中に京機会の有用さを感じるにより、卒業後、活性ある会員になることが期待される。

また、このことを実現させる意味で、学生会の組織をよりしっかりしたものにする指導を必要とする。

4. 財政健全化

(a) 京機会財政を健全化し、機械産業に於ける京大機械系学科のプレゼンスを大きくし、産業振興に寄与するためには、産学連携をより深める必要がある。そのために、先輩と学生との交流会を京機会が主催し、その際、上記趣旨の協賛金の意味で、先輩と学生との交流会参加についての若干の負担を願う。

総会と同日に開催されます「学生と先輩の交流会」運営について、参加費を50000円とし、企業にお願いすることとなりました。結果、本年度の参加企業は93社で、昨年度（91社）に比べ2社増となり、参加金額増による、企業からの不満は届いておりません。

(b) 賛助会員制度の導入も、若干、収入増しの効果が期待できる。

(c) 長年銀行に眠ったままになっていて使われない状態であった特別会計は、京機会の将来的財政健全化、活性化のための投資資金とし、有効に利用してゆくべきである。

(d) 京都大学がやろうとしている名義貸しのベンチャーファンドに似た、「京機会名・情報貸与事業」は、収入増しの観点からは魅力的であるが、京機会がリスクを負う事がない範囲に限らねばならない。したがって、ここで一概に可否を決めることは、現在、せず、具体的提案があった場合に、特別委員会を設置し、その是非を前向きに審査する必要がある。

5. 活性化事業

(a) 学生との連携事業への投資

学生会が企画する各種事業に多くの学生が参加できるよう、積極的に援助する。

なお、このためには前記3.に関連する制度整備が必要である。本年度は、そのための情報収集の意味も込めて、暫定的に弾力的運営をする。

(b) 支部交付金の増額

活性化のための増額と同時に、支部内会員の結束を深めるための企画を期待する。

(c) 生き甲斐仕事紹介事業

仕事の斡旋は、法規上、京機会が取り扱うことは出来ないが、紹介の範囲ならば可能である。このような事業を実施すべきか否か、希望を調査する必要がある。

(d) 京機会運営の独立化

学生の教育支援に特化すべき第二世紀事業会との連携を薄め、独立で運営する必要がある。

(e) 事務職委員待遇

給与、労働内容について、社会常識にあった程度まで、水準化する必要がある。

(f) 総会、大会の出し物

京机会の総会や大会の講演会に人が集められるような面白い著名人の講演を考慮すべきである。

6. 京機会ニュースの魅力化

現在の京機会ニュースの紙面をもっと読みやすく、読者の興味を引く内容に変えてゆく必要がある。

7. 会員相互の交流の場

京機会会員相互の情報交換、親睦を深めやすい場として、常設の京機会サロンが、交通至便の位置にあることが望まれる。また、準備可能な範囲で、総会・大会等に娯楽的イベントを併設し、家族ぐるみの参加が出来る企画も望ましい。また、適切なボランティアの世話係が居た場合には、東大や慶応がやっているような、会員子弟の結婚相手紹介ネットワークなども喜ばれる可能性が大である。

サロンについては導入の方向で意見が一致し、過日、試験運用を行いました。場所はJR大阪駅のホテルグランヴィア内です。大変好評でした。

総会にて、承認が得られれば、詳細案内と共に、利用カードも総会時に配布できるよう準備をいたします。

8. 名簿発行

個人情報保護法などで難しいことの多い名簿の発行であるが、継続して、発行の努力をすることが望まれる。来年秋発行に向け、これから準備を進める。名簿に対する要望・意見等、よろしく願いたします。

8. 無駄と効率 (つづき)

前述したように、生産は消費のためであり、消費しない生産は意味がない。固定資産や社会基盤、建造物などは消費財とは言わないが、歴史的な時間尺度で見れば実質的には消費財と同じである。したがって、あらゆる生産が有用ならばあらゆる消費もまた有用でなければならない。では無駄とは何だろうか。効率が 100% にならず投入資源の一部が生産物に転じ損ねること、或いは人間の意図に反して資源が消費されることを無駄と呼ぶのだろうか。しかしあらゆる有価資源にはその生産者が存在する。労働力もまた当人による生産物である。資源の生産者から見れば、その生産物がどのように消費されようとも、有用な消費である。このように考えると、消費に完全な無駄というものは存在せず、むしろ生産物を消費しないことの方が無駄になる。

生産の効率向上は企業の利益を増加させる最も重要な要因である。一般に小規模少量生産より大規模大量生産の方が効率がよい。こうして、生産者は生産性向上や生産コスト低減のため大規模大量生産化にひたすら努力する。大量生産を支える大量販売・大量消費の原動力となるのが、個々の製品の効率向上である。このように、

この記事中の地図・写真等は、本文と関係ありません。

浪費するアメリカ人
なぜ要らないものまで欲しがるか
ジュリエット B. ショア
森岡 孝二 監訳



個々の企業や製品の効率向上が、現在の持続不可能な大量生産・大量消費社会を造り出したのである。微視的なエネルギー効率向上が巨視的なエネルギー消費増大になるという経済学者達の見解が、ここでも十分に納得できる。

効率向上の真面目な努力が全体の消費拡大をもたらし、持続不能な社会を造ったのは、すべての生産物を有用と見なす機械的な効率に囚われてしまったからである。人間臭いはずの効率が、物理学的表現になった途端に人間味を失った。したがって、このような効率を盲目的に追い求め、それと同じ観点から無駄をなくそうとすること自体に問題がある。富田教授の「無駄の役割」も、これを一見矛盾する言葉で簡潔にわかりやすく表現したものである。

生産や消費の大きさは人間の幸福とは結びつかず、むしろ人間性を失わせるという考えは昔からあり、今も生きている。 莊子は「有機械者必有機事、有機事者必有機心」と言っている(天地編)。 道具があると必ず道具を使う仕事が生じ、道具を使うと必ず道具に頼る心が起こる、という意味である。 それにより心が純白さを失って安定しなくなると説いている。 近年のシューマッハーは中間技術を推奨している。 人間を機械に奉仕させるのではなく、希少な資源を乱費せず、環境的で人間に役立つ大衆による生産の技術が彼の言う中間技術である³。 冒頭のセミナーの榎木哲夫教授の講演「持続性社会のこれからの機械工学」には人間中心、人間活用の技術という言葉が出てきたが、まさにこの意味であろう。

真の幸福に結びつく効率を物理的に表現することは不可能である。 しかし、幸福の大きさを表す分子側の物理的表現は不可能でも、分母側の資源消費量は数値のはっきりした物理量である。 したがって、一人一人による消費量削減がその人の幸福の効率を上げ、それが社会全体の効率向上になる。 従来の効率でも、生産量を増やさずに資源消費量を減らすことだけに努力すれば、全体の資源消費が増加することはない。 このことは、再生不可能な資源の消費と環境汚染を許容範囲内に抑え、将来の世代に環境の持続可能性を遺すという我々現代人の最大の義務のために、どうしても必要である。

(つづく)

(Footnotes)

³ シューマッハー、「スモール イズ ビューティフル」小島慶三・酒井懋訳、講談社学術文庫

(1964年卒 石田靖彦 isiyas@aa.bb-east.ne.jp)



<http://www20.bi.g.or.jp/~norm-e/dri ve/kofuku/photo.html>

京機会九州支部設立

平成17年11月5日(土)、「九州電力八丁原地熱発電所」見学会の後、設立総会・懇親会が南阿蘇久木野村の「三菱重工阿蘇高原クラブ」で挙行政され、京機会5番目の支部として「九州支部」が誕生しました。



会員数166名の九州支部は、小さくこじんまりとしたところを生かして、大きな支部とは一味違う支部活動を目指していく方針です。

今回の阿蘇の温泉での一泊というスタイルをまねて、家族連れで、九州各地の温泉めぐりを計画すれば、他支部からの参加者も増えるのではないかとの意見もありました。

今後の活発な活動が期待されます。

近辺の方は、支部長、藤川卓爾氏にご連絡ください。

連絡先【】

〒851-0193 長崎市網場町536

長崎総合科学大学工学部機械工学科

TEL: 095-838-5173(ダイレクトイン)

FAX: 095-830-2089(機械科事務室)

E-mail: fujikawa@mech.nias.ac.jp



京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます

【処理要領】

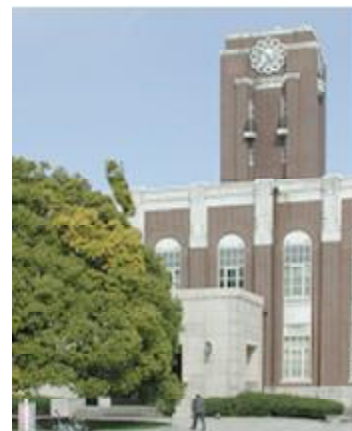
宛先は京機会の e-mail: keikikai@bz3.hi-ho.ne.jp です。

内容的問題、すなわち、内容的に公示価値のないもの、真実と異なる内容のものや、攻撃・誹謗・中傷の記事、広告的なものなどは、掲載しません。

内容的にOKの寄稿については、記事を「京機短信」の所定ページに収めるための編修的修正をエディターが勝手に行います。ページに収めるための大きさの修正が難しい原稿は自動的に掲載が遅れ、あるいは、掲載不能となります。発行までの時間的制約、ボランティアとしての編集実務負荷の限界のため、原則として、発行前の著者へのゲラプルーフは行いません。

平成17年度京機会秋季大会・総会

久しぶりに大学へ。奮ってご参加ください。



日時：平成17年12月3日(土) 15:15～

会場：京都大学百周年時計台記念館

行事：

時計台ホールで京機会総会

1. 講演会 15:15～16:00

『エンジンの研究・教育』

石山 拓二氏 (S53卒、京都大学大学院 工学研究科 工学専攻 教授)

2. 講演会 16:10～16:55

『戦略的商品開発と当社圧縮機事業における成功例』

小谷 重遠氏 (S44卒、(株)神戸製鋼所 代表取締役副社長)

3. 総会 17:00～17:50

(1) 会長挨拶

(2) 平成17年度活動報告

(3) 平成16年度会計報告、会計監査報告

(4) 支部報告(関西・関東・中部・中国四国支部・九州)

(5) 学生会報告

(6) 運営報告と審議

(7) その他(第二世紀記念事業会報告等)

懇親会： 18:00～20:00

会場： 京大生協 吉田食堂

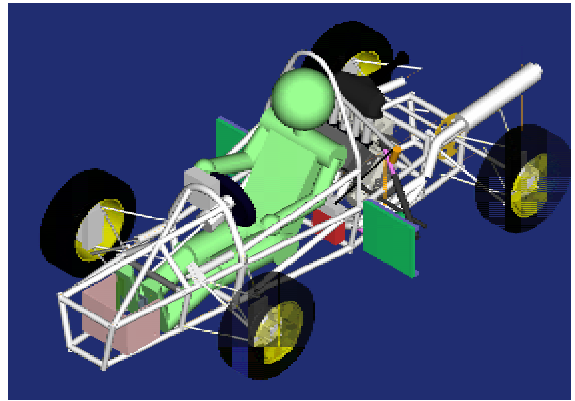
当日、昼前から機械教室で、先輩と学生との交流会が行われております。
ご興味のある方は覗いてみてください。



学生フォーミュラ報告

11月に入り、設計がいよいよ始まりました。今年度は1フィーチャーアッセンブルを行い、まず、全体の構成を捉えることから始めることとしました。

1フィーチャーアッセンブルを行う中で、各人がCADツールの使い方、設計データ共有の概念などを学び、設計をよりスムーズに進められるような態勢を整えました。また、最初に製作する部品を部品表として書き出すことで、より無駄のないスマートな車両を目指しました。現在はこのアセンブリデータを元に各担当箇所の設計を詰めている段階です。



11月13日には琵琶湖スポーツランドをお借りして走行会を行いました。生憎の雨天でしたが、新メンバーを含めて五人が乗車し、今後の活動へのモチベーションを高めると同時に、自分の担当箇所の昨年度の状態をチェックしました。今後も、特に足回りのセッティングなどに重点を置きながら、走行を続けたいと考えております。

また、京大の学園祭(NF)で私たちKARTも車両を展示しております。場所は吉田キャンパス吉田構内の共通北棟前(ローソンの上)となっております。お時間ございましたら、ご来場いただき、私どもの車両をご覧頂きたく存じます。



最後に、最近KARTのホームページ (<http://www.formula-kart.org/>) を大幅更新いたしました。活動近況なども随時乗せ、私どもの活動をより多くの方に知っていただけるようなページにしたいと考えております。是非一度ご覧ください。

第2回キャリア企画

先日11月12日に第2回キャリア企画を行いました。これは前回紹介させていただきました、「本当に実現したい将来像を見つけ、それを追い求めて欲しい」という先輩から学生に対するメッセージをいかに実行するかを考えることを目的とした全3部企画の第2弾です。今回の企画では自分というものに焦点をあて、「自分を知る必要性を感じ、真剣に向き合う」ことについて考えることを目的としたものです。

今回の企画では、関西雇用創出機構でコンサルタントをされている京機会会員の西宗久昭様に講師を依頼し、転職や再雇用を考えている方を相手に仕事をされているキャリアを活かして、実際に相談に来られた方を例として、上記趣旨のお話をさせていただきました。

その中で印象に残ったのは「リスクのない挑戦に意味はない」という言葉で、何らかのリスクを負

うことに挑戦して初めて自分を変えていけるということ、今まで気づいていなかった自分の側面を知ることができるということでした。



講演の後、「仕事をする上で自分が理想とする人物像」をテーマに3グループに分かれてディスカッションをし、各グループでみんなが納得する理想像をひとつまとめるころみる試みをしました。この目的は、企画参加者それぞれ別の理想像を持っていることを知ってほしかったということと、意見を出し合うことで自分が考えていた理想像も頭の中で整理することができるだろうということです。

この話し合いの中ででた理想像は、「仕事を楽しめる人」と「自分と周囲の意見を昇華させる人物」というものでした。

その後、この2テーマについて、「なぜ理想通りの人物になれないのか」、「この理想像に近づくためにこれから意識していくことは」ということを全体で話し合いました。この目的は理想通りにいかない理由を知り、今からできることを考えることで、この企画が終了してからも常に自分に向き合い続けてほしいというものでした。

この話し合いの中で印象的だったのは「自分の理想と仕事の内容がリンクしていると仕事を楽しめる」、「誰もが他人の話を中心に聞いていないという意識をもつことが大事」という意見でした。

以上のような内容の企画に参加された学生の方から、「自分の中には無い考え方をいろいろと持てた」、「西宗様がおっしゃった通り、違う環境にも積極的に身を投じようとおもった」という意見などをいただき、今回の企画目的に対して満足していただけたようです。また西宗様からも、「難しいテーマを議論されるのを聞いて自身も勉強になりました」「幅広いOBを集められることは京機会の強み。積極的に進められたらよいと思いました」という意見をいただきました。

これからもOBの方と学生とが共に高めあっていけるような関係を目指して企画を進めていきたいと考えています。最後に、今回参加してくれた学生の皆さん、ご多忙の中貴重な時間を割いてお越しいただいた西宗様、この企画の開催に協力してくれたSMILEの皆には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。